



❖ 自分自身と向き合ってみよう ❖

「自分が、よりよく生きていくというのは、どういうことなのか」を考えるために、いろいろな資料を通して考えているのが道徳の時間です。今年もたくさんの資料を通して、自分と向き合う時間を持ちました。

「なりたい自分」を想像するとき、自分にとって大切な事はどんなことなのでしょう。そんなことを考えたとき、道徳の時間に読んだ資料の中で、印象に残ったものはあったでしょうか。

いろいろな資料を読みながら、みなさんと一緒に考えたいと思うことの一つに、「心の強さ」があります。「心の強さ」とはどのようなものだと思いますか。人は生きていく上で、多くの出来事と出会うでしょう。中には、自分の想像を超える逆境に出会うことがあるかもしれません。それは、天災かもしれないし、事故や病気かもしれません。けれど、自分に与えられた環境にあきらめてしまうのではなく、その環境の下で、「自分にできることは何か」を最大限考えることも大切だと思うのです。

実生活の中でも「心の強さ」について考える機会は数多くあります。3月11日に起こった東日本大震災後の被災者の姿がその1つかもしれません。大きな地震の被害から乗り越えようとする人々の前向きな気持ちは、現地の人々の心だけでなく、離れた場所に住む私たちにも何かを考えさせるものでした。おそらく、大きな出来事が自分に起こったとき、それが想定外の出来事であったとしても、人にはそれを乗り越える力があるのでしょうか。その力は、普段、表に出すものではなく、心のどこかに貯めておくものなのかもしれません。だからこそ、想定外の出来事が起こったとき、自分のために、あるいは、大切な人のために、その力が目に見える形で出てくるのでしょうか。

こういった力は、普段から貯めようと思って貯められるものではなく、いろいろな機会に自分の生き方について考えるからこそ、その都度、心のどこかに貯めておけるものではないかと思うのです。普段の生活で、うれしい・楽しい・悲しい・腹が立つなど喜怒哀楽を大切にすることで、自分を支えてくれる人がいることに気づいてこそ、「心の強さ」の正体について少しずつわかっていくことがあるのではないのでしょうか。みなさんはどう思いますか。

今学期、1年生と3年生が星野富弘さんの「鈴のなる道」で学習をしました（2年生については、昨年度、行いました。）。星野さんは、体育教師となって数ヶ月が経った後、生徒の前で、体操競技の鉄棒種目の模範演技を見せようとした時に、首から落ちるという事故に遭いました。そのため、首より下の神経が麻痺し、ほぼ寝たきりの生活と

なりました。今では、口にくわえた筆で描く絵と詩を発表し続けています。星野さんの生きていく力の源とは何なののでしょうか。

～1年生の授業より～ 星野富弘「鈴の鳴る道」（偕成社 1986年）

1年2組では、「鈴の鳴る道」の中で星野さんの文章にある「人生のでこぼこ道」「鈴」「道を迂回せずに進む」という言葉から、星野さんの生き方について考えました。

「人生のでこぼこ道とは何だろう。」

- ・ 不安・困難・試練 ・ 大変なこと
- ・ 暗い気持ちを持つこと
- ・ 逃げ出したくなるようなこと

「鈴とは何なのか。」

- ・ 希望 ・ 辛いときの支え
- ・ 心が明るくなる
- ・ 立ち上がらせてくれるもの
- ・ 心にひびきわたるもの

「道を迂回せずに進むとはどんな人生か。」

- ・ 辛いことも、乗り越えて生きていく。
- ・ 自分の信じた道を突き進む人生。
- ・ 嫌なことにも、みずから進み、その先の幸せをつかむこと。
- ・ 辛いことにも負けずに向き合う人生。
- ・ 今まで避けていたものに向かっていく人生。
- ・ 真っすぐ素直に生きる人生。



「鈴の鳴る道」
星野富弘著(偕成社 1986)
より

また、1年1組では、このような感想が出ています。

- ・ 星野さんは長い入院生活の中で色々なことがあったけど、それを乗り越えて頑張っていたことがすごいと思いました。
- ・ もし私が星野さんと同じ目にあったら、ヤケになって、口で文字を書こうとも思わないだろうし、ずっと後悔や八つ当たりをしていたと思うけど、星野さんはひたすら前を向いて、しっかりと今を精一杯生きているからすごいと思いました。
- ・ （体が不自由になって）日常生活では色々支障が出たりして、イライラしたり、くじけそうになると思うけど、そんな1つ1つに立ち向かって、工夫して乗り越えていく姿が、色んな人に勇気を与えていて、素晴らしい人だと思う。

（裏に続く）

(感想続き)

- ・ 星野さんの苦しみは、きっと私にはわからないけど、苦しみの中でもお母さんがいたから、星野さんは絵を描き続けることができたんじゃないかなと思いました。
- ・ お母さんなしでは生きられないというのは、私にもわかると思う。まず、生まれてこれないし、世話をしてもらわなければいけないから、お母さんは大事にしようと思いました。
- ・ 口で書いたとは思えないくらいうまい絵だった。すごく長い時間努力して書いたんだろうなと思った。
- ・ ついささいなことでカッとしてしまうことは自分もたまにあるなと思った。手や足が動かないことが、どれだけ苦しく、しんどいかわかった。
- ・ 努力家だと思った。あきらめずに頑張り続けている星野さんは強い精神力だと思う。自分のことをこんなに正直にかけるのはすごいと思う。首下が動かなくなったのに、絵に挑戦して成功して、努力は報われるんだなと思いました。

1年生の文章からもわかるように、この「鈴の鳴る道」では、このような事故に遭ってもなお、紆余曲折しながら、生きていくことをあきらめずに創作活動をしておられる星野さんの文章や作品から、星野さんの力強さだけでなく多くの事を子どもたちが感じ取っていることがうかがえます。

今年度も「鈴の鳴る道」をはじめとしたたくさんの資料を通して、自分以外の人の生き方に出会うことができました。このようにして、たくさんの人の生き方を自分の生き方に照らし合わせながら、「これから自分はどんな人でありたいか」「どんな生き方をしたいか」を考えることで、今まで知らなかった自分自身と出会えるのではないかと思います。そういう意味で言えば、道德の時間は、「自分探し」の時間とも言えるかもしれません。

五中では、来年度もまた、今年度と同様、たくさんの人たちの生き方や新たな自分自身と出会いながら、大人も子どもも共に考えていける道德の時間にしていきたいと思っています。